老老介護・認認介護の実情と対策は

質問者 榎本 義輝

約800万人といわれる団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、日本ではすでに65歳以上の高齢者が人口の29%を超え「超高齢社会」となっている。そのため、社会保障費の負担増、医療・介護体制維持の困難化、労働力不足などの社会課題が生じており、さまざまな課題も私たちの目前に迫っている。特に65歳以上の高齢者のみの世帯の増加による「老老介護」や「認認介護」が深刻化しており、町の実情と対策について伺う。